

アーキテクチャ検討報告書 (Group18)

1029-28-9483 勝田 峻太郎 1029-28-1547 住江 祐哉

2018 年 5 月 9 日

概要

要求仕様

- 16bit 固定長命令を読み込む
- ロード・ストアアーキテクチャと 2 オペランド形式の命令セット (演算 add,sub,and,or) を実装する
- 分岐命令 (無条件/条件) を実装する.
- 入出力命令・停止命令も実装する
- ジャンプ命令の実装.

設計目標

5 ステージパイプラインプロセッサを作る. 余裕があれば, ハザードやフォワーディングにも対応する.

方針

始め、トップダウン形式でプロセッサ全体をモジュールに分割し, 設計を検討する. 以下に分割した各モジュールを示す.

IF:命令フェッチ (p1.v)

プログラムカウンタ、命令メモリを含むモジュールであるマルチプレクサ、加算器も含むこのモジュールで 16bit 固定長命令が書かれたプログラムを命令メモリから読み出し、このプロセスで行う命令を決定する

ID:命令デコードとレジスタフェッチ (p2.v)

読み出したり、書き込んだりするためのデータが保存されたレジスタ、符号拡張器が含まれているモジュールである. このモジュールではレジスタからの読み出しと、命令セットに書かれている定数のビット変換を行う. 制御もここで行う.

EX:命令実行とアドレス生成 (p3.v)

ここで演算命令の演算を行うビットシフタ、加算器、ALU、マルチプレクサが含まれる

MEM:メモリ・アクセス (p4.v)

データメモリとそれに対する読み込み, 書き込み機能を持つ.

WB:レジスタ書き込み (p2.v)

ロード命令, 演算命令など, レジスタへの結果の書き込みなどを必要とする場合, レジスタに書き込みを行う. ただし, レジスタは p2.v に存在するため, p2.v 内にクロックを送り処理する.

コントローラー (Controller.v)

全体に適切なクロックを送り, マルチサイクル実行を実現するモジュール.

特長

- 8 本の汎用レジスタ
- 16bit, 4096words の主記憶と命令メモリ
- 5 ステージによるパイプライン方式による実行
- ハーバード・アーキテクチャ

高速化/並列処理の方式

パイプライン処理により, リソースを効率的に使い, 高速化を目指す.

性能/コストの予測

性能

コスト

論理素子の数はパイプライン化しないので 1000 を切ることを目指す